

虫生鬼来迎

後継者も立派に育つ

七月十六日小雨の中で行なわれた鬼来迎は、遠く埼玉、東京、神奈川県などから多数の見物人で境内も大変な賑わいとなりました。

広済寺に続く町道も今年七月に舗装が完成し、道路の端には各方面からの車で大変な混雑となりこの日は静かな部落もお祭り騒ぎの一日で終わりました。

虫生部落の広済寺に伝承される

鬼来迎は、わが国唯一の仏教劇といわれ、国選択無形文化財であり県の無形文化財に指定されています。

鬼来迎という名称は、人が死ぬとき、死ぬ人を仏が極楽浄土へ迎へ導きにくることを来迎という言葉で表現しているのが、鬼舞と来迎を合わせた術語と思われる

ます。

この劇は、毎年七月十六日に広済寺で施餓鬼がおこなわれ、このおりに境内に仮設の舞台を造って壇家の青年が仮面をかぶって地獄劇を演じてみせる。これが鬼来迎です。

(あらすじ)

○大序 地獄の間魔大王、俱生神

○和尚物語 城主・椎名安芸守の屋敷の場。石屋が辻堂の中でみた娘の苦悩のさまを語ると、安芸守夫妻は、それこそわが娘と歎き悲しみ、やがて石屋の教えに従って娘を地獄に落し入れたみずからの罪障の消滅と、娘の成仏を願って、広済寺の建立を石屋に約束する。

○賽の河原 ふたたび幽界に戻って賽の河原で遊ぶ幼児たちが、地獄の鬼に追われるが、地藏菩薩が救う。

○釜入 一人の亡者を奪衣婆や黒鬼、赤鬼が責め釜ゆでにする。

全国に知られた

郷土芸能

奪衣婆(鬼姿)黒鬼、赤鬼が勢揃いして亡者の罪を判じ、のち亡者を鬼が責める場面。

○和尚道行 虫生の里のとある辻堂。一夜の宿をとりおくれた旅の僧石屋は、そこで偶然地獄の鬼に責められている妙西という娘の姿を見る。

○墓参 妙西の親・椎名安芸守と妻顔世が娘・妙西の墓参にきて石屋に会い、彼を屋敷に伴う場面。

○釜入 一人の亡者を奪衣婆や黒鬼、赤鬼が責め釜ゆでにする。

○死出の山 前景に続いて奪衣婆や鬼が亡者を責めに責め、これを死出の山においやる。しかし最後に観世音菩薩があらわれ、鬼を負かし、亡者を浄土に連れ去る。

以上の七場からなっていますが、大序、賽の河原、釜入、死出の山は、地獄の情景と菩薩来迎の姿をえがいたものであり、広済寺建立の由来を説いた和尚道行、墓参、和尚物語とは筋立ちも趣きも異なっており、本来はひと続きのものでは



熱心に見入る見物人



大序の場面 左から俱生神・間魔大王・鬼婆



死出の山の「コマヤ